

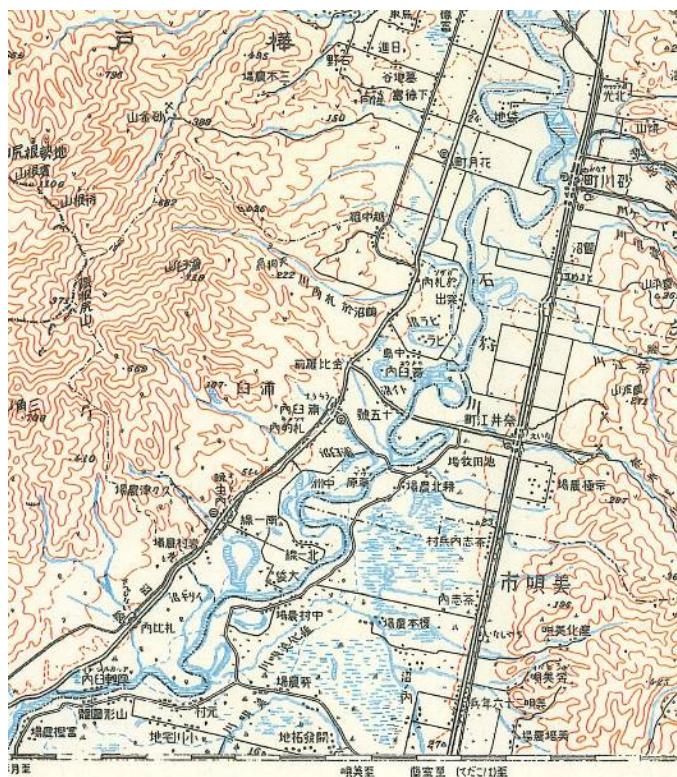
「日々の理科」(第 4125 号) 2025, 11, 25

「石神井川下流の流路変遷 (2)」

お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

石神井川下流の流路跡は、自然発生的な流路変更ではなく、人工的な河川改良工事による結果残った地形であることは、ほぼ疑いありません。石神井川に限らず、蛇行の激しい川は屈曲部で流下能力が低下し、増水時に「溢水(いっすい)」を起こしやすくなります。そこで屈曲部を「捷水路(しょうすいろ)」と呼ばれるバイパスで直線的にする河川改修が行われます。特に盛んに行われたのが石狩川です。



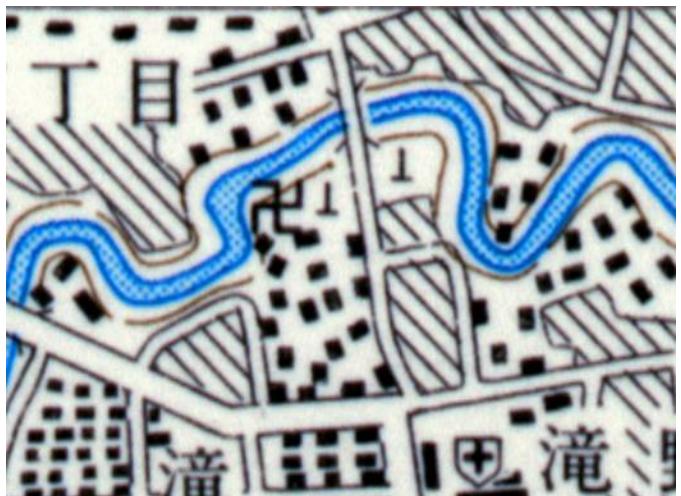
(地理調査所地勢図／昭和初期／当方所蔵)

図は、石狩川中流域の、大正末期～昭和初期の地勢図です。石狩川はもともと「イ・シカリ・ペツ(その・曲がった・川)」という地名解からもわかるように、非常に蛇行が激しい川でした。それは旭川から河口まで高低差がわずか 100m しかなく、ほとんど平地を流れているからです。従って、溢水・氾濫は常態化していく、流域には広大な荒地(湿地や泥炭地)が広がっていました。その後河川改良工事が行われ、ほとんどの屈曲部は直線化されました。その結果、人工的とはいえ、現在でもその屈曲流路跡に三日月湖(河跡湖)が多数残っています。



(地理院地図／1975年)

石神井川の蛇行部の変遷も、まずは地形図上の変化を見てみました。図は 1975 年(昭和 50 年)の北区王子・滝野川付近の地形図です。左端の鉄道(国鉄赤羽線／現在埼京線が走っている路線)から右端の王子駅にかけて、何か所もの屈曲部が見られます。



(地理院地図／1975年／昭和 50 年)

現在の「音無さくら緑地」も、まだ石神井川の屈曲部の「半島」のような地形でした。



(地理院地図／1976年／昭和 51 年)

その 1 年後にはすでに捷水路が完成しています。しかし、屈曲部にもまだ「川(流れ)」が残っています。川に囲まれた「島」に取り残された 4 軒の民家の住民は、どうやって生活していたのでしょうか?